

(社)日本原子力学会  
第21回倫理委員会議事要旨

日時 H17.7.26(火)14:40~17:30  
場所 原子力安全システム研究所B・C会議室  
出席者 西原、宅間、班目、安濃田、磯輪、大場、鐘ヶ江、北村、作田、鳥飼、中安、  
萩原、別府、松尾、矢野の各委員(15名)  
大橋(傍聴者)

配布資料

- 資料 21 - 1 第20回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 21 - 2 日本原子力学会倫理規程改訂の進捗状況
- 資料 21 - 3 日本原子力学会倫理規程 2005年修正版
- 資料 21 - 4 CSRタスクチームの今後の活動について  
(CSRに関するアンケートについて)
- 資料 21 - 5 事例集整備状況について
- 資料 21 - 6 原子力学会誌への記事投稿について
- 資料 21 - 7 倫理委員会MLについて
- 資料 21 - 8 第4回原子力に関する倫理研究会について
- 資料 21 - 9 秋の大会 社会環境部会CDにおける講演
- 資料 21 - 10 隔月刊「経営倫理」『日本原子力学会の倫理活動』骨子(案)
- 資料 21 - 11 第3回原子力に関する倫理研究会報告書
- 参考資料 21 - 1 東京大学原子力国際専攻先進原子力特別講義第1  
(原子力安全基盤機構公開講座)

議事

1. 資料 21 - 1 に基づき前回議事要旨を確認した。
2. 班目幹事から、資料 21 - 2 を用いて倫理規程の改訂作業の進捗状況について説明があった。改訂案は現在ホームページに公開し意見募集中である。すぐに対応するのが難しい意見が提出されたときは、次期改訂で対応することを約束し、今期中に改訂作業は一応決着させることとした。すなわち11月の理事会で承認をうけることを目標に作業をすることとした。意見提出者には名前を明記することを要求しているが、匿名での意見提出に対しても対応はすること、しかし積極的に匿名での意見提出を求めることはしないという方針を確認した。なお、公衆審査で意見を提出する人は強い意見の持ち主であり、それは必ずしも会員全体の意見を代表するものではないこと、したがって第2回原子力に関する倫理研究会で意見を書いてもらったような機会を今後も持つことが大切だというコメントがあった。

- 3 . 中安委員より資料 21 - 4 を用いて C S R に関するアンケート案の紹介があった。アンケートの目的について意見交換があり、賛助会員に C S R や倫理の大切さを認識してもらうと同時に、委員会としても C S R をどう考えるか勉強する機会と捉えるべきとの意見が出された。本アンケートはあくまで原子力にとっての C S R は何かを問うものであるため、アンケートにもそのことを明記するとともに、原子力以外の部門もある賛助会員については原子力担当部署にこのアンケートがいくよう工夫することとした。質問項目が多くて回答が非常に大変な案となっているので、質問項目は少なくし、その中で回答してもらいたい内容を例示することで、回答しやすい形に工夫することとした。アンケートに意見がある委員は 1 週間程度の間の中安委員に連絡すること、それを考慮して C S R タスクチームでアンケートを最終的な形とし、8 月中に発送することとなった。
- 4 . 作田委員より資料 21 - 5 に基づいて事例集作成の進行状況について説明があった。4 つの事例が作成されたこと、第 4 回原子力に関する倫理研究会でも事例が集まると期待されることが説明された。
- 5 . 萩原委員より資料 21 - 10 に基づき隔月刊「経営倫理」に掲載する倫理委員会の活動紹介記事内容の説明があった。原稿は萩原委員がたたき台を作成し、委員がコメントすることとした。
- 6 . 大場委員より資料 21 - 6 を用いて原子力学会誌に掲載する「東京電力自主点検記録不正および関西電力美浜発電所二次系配管破損事故への倫理委員会の対応について」の原稿が紹介された。また、倫理委員会関係の記事が 2 件掲載されている原子力学会誌 7 月号が回覧された。学会誌に倫理委員会でコラムを連載することについてはまだ編集委員会で検討中であることも紹介された。
- 7 . 大場委員より資料 21 - 7 を用いて倫理委員会のメイリングリストの説明があった。なお全員が賛成だったわけではなく、反対意見もあったとの指摘があった。セキュリティ問題などについて意見交換の後、金沢工業大学のサーバーを利用させてもらう形で試行してみることもあった。
- 8 . 作田委員より資料 21 - 8 を用いて第 4 回原子力に関する倫理研究会のプログラム等について説明があった。
- 9 . 大場委員と班目幹事より資料 21 - 9 を用いて 2005 秋の大会のチェインディスカッションは 9 月 14 日の午後に実施されることが紹介された。
- 10 . 班目幹事より参考資料 20 - 10 により東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻先進原子力特別講義第 1 ( 原子力安全基盤機構公開講座 ) の一環で技術倫理関係を取り上げ、12 月 17 日 ( 土 ) 午後、日和佐信子 ( 雪印乳業社外取締役 )、西部邁 ( 評論家 ) と班目幹事による講演、ディスカッションがあることが紹介された。これを倫理委員会の共催とはしないこととしたが、その機会を利用したアンケートの中身などについて意見をいただきたいとの協力要請があり、できる範囲で協力することとした。
- 11 . 第 5 回の原子力に関する倫理研究会については今期の倫理委員会の任期終了前の 11

月までに開催する方向で、その内容について今後検討していくこととした。倫理規程の周知を中心とした企画、技術士試験と関係付けた企画、これから実施するCSRに関するアンケート結果と関連した企画などのアイデアが出された。

12. 次期の倫理委員については9月9日締め切りでホームページにて募集し、次回の委員会で検討した後、委員会から理事会に推薦することとした。なお、できれば多くの委員に引き続き委員を引き受けてもらいたい旨の発言があった。

13. 理事から選出された委員の出席率が悪いことについて別府委員から、その第一の理由は時間的制約であり、最初のうち内容理解に時間が掛かったことも少しは影響したとの説明があった。

14. 次回の委員会は秋の大会に合わせて八戸で9月14日の午前中に開催することとした。